令和８年度　第１回佐賀市上下水道事業経営審議会　議事録

◆　開催日時

令和８年１０月１４日(水)　１０：００～１２：２０

◆　開催場所

佐賀市上下水道局５階　大会議室

◆　出席委員（敬称略、五十音順）　※◎は会長、○は副会長

○合六丈晴、◎角田幸太郎、原田烈、平野剛、福田忠利、溝上良雄、吉村純子

◆　欠席委員（敬称略）

猪八重拓郎、桑原直子、坂井俊彦

◆　事務局

姉川上下水道事業管理者、佐尾副局長、一ノ宮副理事、北村総務課長、片江総務課参事兼職員係長、栗原財務課長、日吉財務課参事兼財務係長、溝口業務課長、副島総務課主査、副島水道工務課長、副島浄水課長、田中下水道工務課長、牟田下水道施設課長、江口下水道施設課参事兼官民連携推進室長、江口給排水設備課長、、廣瀬企画係長、溝口総務課主査、西川総務課主査、長山総務課主査、内田総務課主査

◆　傍聴者

なし

◆　議事要旨

１．開会

（司会による挨拶）

２．委嘱状交付

（席上に配布し、委員氏名のみ紹介）

３．佐賀市上下水道事業管理者職務代理者あいさつ

○姉川佐賀市上下水道事業管理者

皆さんおはようございます。本日は佐賀市上下水道事業経営審議会に御多忙の中、御出席頂きまして、また委員をお引受け頂きまして、誠にありがとうございます。

また日頃より、本市の上下水道事業に御理解、御協力頂いていることをこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

当審議会でございますが、本市の水道事業、工業用水道事業、下水道事業の健全な運営について、皆様方から幅広い御意見を頂きながら、今後の事業運営に活かすことを目的としております。

今日の上下水道事業を取り巻く環境でございますが、人口減少に伴う使用料の収入の減少、老朽化への対策、災害への備えなど、多くの課題に直面をしておりまして、ますます厳しい状況になるものと思っているところでございます。

そういった中、本年7月に熊本地震が発生いたしまして、水道を含むライフラインに大きな被害が発生し、ますます上下水道の重要性、こういったものを再認識しているところでございます。

本市におきましても、発災翌日から職員を派遣して、給水活動や、水道管の復旧、下水道の調査など、そういったもので職員を当たらせております。

この活動は、被災された方が 1 日も早い日常を取戻していただくための活動ではございますが、本市の職員が実際に被災地に出向いて感じたこと、そういったものも数多くございます。こういったものを今後の備えにも活かしていきたいと考えているところでございます。

持続可能な水道、下水道、そういったものは、老朽化対策や、地震対策、耐震化などを確実に進めていく必要があると強く感じているところでございます。委員の皆様方には、様々な、専門的な知見であったり、豊富な経験に基づいて忌憚のない御意見を賜りたいと思っているところでございます。

簡単でございますが御挨拶とさせていただきます。本日はどうかよろしくお願いいたします。

４．委員及び佐賀市上下水道局職員の紹介

（委員→職員　の順で自己紹介）

５．会長及び副会長の選出

（事務局から、会長に佐賀大学経済学部教授の角田委員を、副会長に税理士法人諸井会計の合六委員を、それぞれお願いしたいと説明　⇒委員全員承諾）

６．会長あいさつ

今日は7名の委員が出席してますが、それぞれの立場の違うところからの御意見ということで、我々10 人で審議し、いろいろ意見して、佐賀市の上下水道のために意見していきたいと思います。昨年度は我々が意見をまとめたものが、なかなかうまく伝わらないとこともありましたけれども、うまく我々の意見が役に立つような展開になっていけばいいかなと思っております。よろしくお願いします。

７．依頼事項

（本審議会において討議していただく事項について、会長に対し、職務代理者による依頼事項の読み上げ）

８．事務局説明

≪事務局より「事務局説明（１）」の説明　約５分程度≫

９．議事

〇会長

はい。それでは、次第に従って進めてまいります。９の議題１　水道事業、下水道事業及び工業用水道事業の概要について、説明をお願いします。

〇事務局

≪「議題１」の説明≫

〇会長

はい、ありがとうございました。それでは、ただいまの説明につきまして、委員の皆様から何か御質問や、御意見などありましたら、お願いしたいなと思いますが、いかがでしょうか。

〇委員

13 ページですが、の 1 番下の浄水施設の大規模更新の検討は、次に出てくる資料 3 の 13 ページの大和の浄水施設を神野に統合するということでしょうか。

〇事務局

はい。資料 2 の 13 ページに記載している取組みは三つございまして、そのうち浄水施設の大規模更新の検討ということでございます。これにつきましては、委員ご察しのとおり、資料 3 で詳しく説明をさせていただきます。

〇委員

気になったところが、3 ページの職員の年齢別ですけれど、45 歳前後が下がってるということで、通常の正常な職員年齢構成じゃないなと思ってちょっと気になったのですが。これは人件費に直結するものになると思いますが、ここのところが気になったので、何か歪な職員年齢構成となっている原因がございましたら教えてください。

〇事務局

説明をさせていただいたとおり 50 代が多くなっており、40 代のところは構成が低くなっております。これは佐賀市全体としまして採用を手控えた、そういった期間がございまして、こういう構成となっております。今後、運営を行っていくにあたって、人材の獲得といった課題がございます。これらについては、人材の育成に取り組んでまいりたいと考えております。以上です。

〇委員

私も、実は3ページのところでちょっと御質問したいなと思ってたんですけど、実際私も他の自治体さんとかいろいろ見させていただくと、結構こういう山なりのところが増えてるんじゃないかなあと思っています。1番私が危機感持ってるのは、人口減少によって、働き手不足っていうのも出てきていて、今後、特に今から10年で50代以上の方が定年退職を迎えられて、引退された後で、例えば100人、退職される時に、100人の人員を補充できるのかという問題が出てくると思っています。そういったことの対策として、自治体の中ではどういう方向性で協議をされているのでしょうか。不足する人員を今後どうやって補充するのか、もしくは人に頼らない、ＤＸなどの効率化による代替策の検討などの協議が内部的に進んでるかどうか、どういう状況かというのが、もし分かればお伺いしたいと感じています。

○事務局

はい、御指摘の部分は大きな課題だと考えております。現在も人員を確保する施策としまして、定年延長を行っており、あと数年で定年退職の年齢が65歳まで延長されます。定年延長により人員の確保をしている状況です。また委員御指摘のように、最近は国のほうからもＤＸということで推進されており、また佐賀市においてもＤＸ推進課というのができてきておりますので、できるところはＡＩに任せるとか、業務の内容についてはもう少し分解して、取捨選択ではないですけども任せられるところを任せるとか、手段については日々勉強させていただいております。これが具体的に進んでいるかと申しますと、まだまだではございますが、進めていかなければいけない課題として認識をしております。以上です。

○事務局

佐賀市全体で、今1番不足してるのが技術職でございます。募集をかけてもなかなか応募がないというような状況でして、欠員が出ているような状況で、これは佐賀市全体の課題でございます。上下水道局の職員といっても、人事異動については佐賀市役所の中での異動というのもありますので、そういった中での対応をさせていただいております。一方で、国においても技術の継承というのが非常に課題ということで言われてます。国においてはウォーターＰＰＰ、包括的民間委託というような方法をとりながら技術を継承してくださいというような指導もあっているところでございますが、民間事業者においても技術職の不足が出てきていると言われております。本市の採用につきましても、いろんな機会をとらえて募集を行っており、民間経験枠での採用など色々な取組をしておりますが、それでも確保が難しいということで、先ほど総務課長が申しましたとおりＤＸについても進めさせていただきながら対応をしていきたいということで思っているところでございます。

○委員

ちょっとお伺いします。2ページの組織の中で、職員137名、再任用、会計年度職員あわせて153名とういことですけど、上水道と下水道の割合はどうなってますか。

○事務局

はい、職員が 137 名というふうにお答えしましたが、水道のほうが少し多くて水道事業が 72 名、下水道が 65 名、合計で 137 名の定数となっております。以上です。

○委員

それともう一つ、6 ページの水源ですけど、嘉瀬川ダムからの供給区域はどちらですか。

○事務局

はい、嘉瀬川ダムの供給区域につきましては、富士中央水道施設になりまして、富士町の古湯地区になります。

○委員

富士町なんですね。これは簡易水道ではないんですか。

○事務局

そうですね、平成 27 年まで簡易水道と言っておりまして、今は水道事業と合併しまして、水道施設というふうに呼んでおります。

○委員

富士町なんですね。大和町はないんですね。分かりました。

○委員

単なる意見というか感想ですけれども、先ほど局長からウォーターＰＰＰのことが出てきました。資料 3 で、この後、説明があるんだろうと思いますが、資料 3 の 28 ページ、決算額が 2,266 万円とありまして、この決算額が多いか少ないかは分かりませんけれども、委員、市民として、28 ページのウォーターＰＰＰ導入については、まだ先でしょうけれども、これの準備事業というのは、非常に期待をしているところです。

○会長

よろしいでしょうかね。コメントされますか。

○事務局

ウォーターＰＰＰにつきましては、国から推奨されている事業でございますが、市としてのメリットが明確にはなっていないところがあります。そのため、現在、調査を行っている段階であり、どういった形が 1 番、市として良いのかということを検討している経費でございます。そのため実際にウォーターＰＰＰを始めるとしたら、例えば 10 年間の委託費などが事業費として上がってくるというような形になります。あくまでも現在は調査の段階でございますので、こういった金額になっているというところでございます。

○会長

ほかに御意見がないようでしたら、一旦ここで休憩を入れたいと思いますが、いかがでしょうか。それでは、11 時 10 分に再開したいと思います。

≪休憩≫

〇会長

それでは、会議を再開したいと思います。それでは、議題の二つ目です。令和７年度の決算報告につきまして、御説明をお願いします。

〇事務局

≪「議題（２）」の説明　約３７分程度≫

〇会長

ありがとうございました。確認ですが、令和６年度は最後に意見書を提出しましたけど、今回はこういう場での意見のみということで、議事録に掲載されるといういうのと、ホームページなどで掲載されるということです。

それでは、令和７年度の決算報告についての説明がありましたが、委員の皆様から質問や意見等ございませんか。あと、文字起こしの時のために、最初に発言者のお名前を名乗ってもらったほうが良いかと思いますので、お願いします。

〇委員

改めまして、やはり我々が安心でいつも水を頂けるのは、管路や施設の維持管理がその根幹になるのかなと改めて思っていて、そういう意味ではある程度の期間をかけて更新計画に沿って事業されているというのは感謝しています。

それで、例えば老朽管 70 年プランがありますけれども、プランの年数というのは、その施設の耐用年数を考慮した期間の設定ということで理解してよろしいでしょうか。

〇事務局

実耐用年数ということで、資料３の 12 ページの左の事業目的に少し記載させていただいておりますが、管路につきましては国の実耐用年数のデータ、他都市の使用実態、本市の使用実態を踏まえまして、塩化ビニール管は 60 年、ダクタイル鋳鉄管は 80 年と独自に設定して更新しております。

〇委員

実耐用年数を参考に、例えば 70 年プランということになっているということですか。

〇事務局

そうです。70 年以内に管路の更新を完了させるということです。

〇委員

老朽化については程度、耐用年数を考慮したプランが立てられるんですけれども、地震みたいに突発的に発生し得るものについては、なかなか何年というその根拠が難しいと思うんですが、それはやっぱり予算などの要因を鑑みてプランを立てるしかないと思うんですけども、そういった理解でよろしいでしょうか。

〇事務局

30 年プランにつきましてはそういった考えで設定しております。

〇委員

はい、ありがとうございました。

〇委員

一つ聞きたいのは、老朽管の改修はされてますけど、上下水道局の１番のビジョンでは、おいしい水の供給ですよね。おいしい水の供給のためにですね、何か老朽管を更新される中で取り組まれたことがあるのかどうか。例えば管路の末端でカルキ臭がするとか、梅雨時期には藻の匂いがするとかっていう声が昔からあったんですが、そういうのを老朽管の更新のときに改善をされてるのかどうかですね。極端に言えば、佐賀市の場合、浄水場は神野にあって、末端の本庄や蓮池まで水を流すと、どうしても水道法で定められている残留塩素の基準に保つためには、浄水場では塩素を多めに入れなきゃいけないと。そしたら浄水場周辺では塩素が強めになるのでカルキ臭がする。ですから例えばその管を入れ直す段階で、例えば中間点で塩素を追加で入れるようにするといった様な、何かそういう工夫があったのかどうかですね。ただ、今ある管を入替えているだけなのか。

それともう一つは、佐賀市の場合にはその他の市に比べてですね、管渠が多過ぎるということがあるんですよ。系統立ってないから、今回、やり直す段階で系統立てるといったことをやっていけば、今後の管理をする面でも非常に便利だと思うんですけど。多分、管の大きさについては見直しをされてると思いますが。極端に言うと佐賀市の水道は非常に丁寧で親切なので、例えば我が家はどこからでも水が来るようになってるんですよね。極端に言うと、蜘蛛の巣状に水道管が配置されているんじゃないかと思うんですけど、その辺に無駄は少しあるんじゃないかと思います。その辺何か改善をされていますかどうか聞きたいです。まずおいしい水についての配慮ですね。

〇事務局

管路の更新なんですけども、70 年プランにつきましては、その管路が古くなる前に更新を行うというところで、ちょっとおいしい水については、担当課のほうから説明をお願いしたいと思います。

〇事務局

よろしくお願いいたします。委員から御指摘がございました、残留塩素濃度について、それから、水道水の藻臭さということについてちょっとお答えしたいと思います。まずおいしい水の要件であります、そういった藻のような臭いがしないということにつきましては、浄水処理過程におきまして、活性炭を適切に使いましてそういった臭いがしないように改善を行っております。

また、残留塩素濃度につきまして、いわゆるカルキ臭ですね、これが末端のほうで少なくなるように市内には多数のテレメーターと言われます残留塩素を監視する装置を配置しております。そこの数字を見ながら高くなり過ぎないように、しかしながらちゃんと安全性は確保する濃度になるように管理しております。また、管種についてのお話

しもありましたが、昔に比べ最近の水道管は、いわゆる錆やすい鉄管を使わないようになってきております。錆びた水道管が塩素を消毒しやすいので、そういった面についても解消が行われているものと思っております。以上でございます。

〇事務局

管網の見直しについてのご質問につきまして、管路の整備につきましても、その都度、2本あったところを1本にするなどの見直しは随時行っている状況でございます。以上です。

〇委員

それともう一つ、大和町の水道です。現在の水源は井戸ですよね。大和町の水道を見直して表流水に変えられるんですか。要するに、神野浄水場からの水もしくは、東部水水道の受水を大和町に配水するようにされるのか。今ある地下水の施設は止められるということですか。

〇事務局

現在、大和町では地下水源の揚水量が非常に低下しております。そういったことも勘案しまして今後、浄水施設の再構築を検討する中で、そういった施設の順次廃止の方向を考えております。当面は現有施設を使いながらでございますが、将来的にはそういった方向に考えております。

〇委員

今、浄水場の新設って言われましたか。

〇事務局

神野浄水場の再構築がございまして、そういったところと絡めて考えてまいりたいと思っております。

〇委員

というのは、要するに、こちらの浄水場から水を送るということでいいですね。

〇事務局

はい。

〇委員

分かりました。

〇会長

他はいかがですか。ちょっと私から一つ質問させていただきます。

資料3の29ページの市営浄化槽整備事業につきましてです。私は現在、佐賀県の別のある市・町の上下水道経営審議会の委員も務めています。そちらの自治体では、公共下水道と農業集落排水と市営浄化槽をやってらっしゃるんですが、やはり人口の減少進んでいて、そこの自治体では市営浄化槽をやっていくのは、ちょっとしんどいということで、市営の浄化槽をやめて、個人に戻すっていう動きがちょっとあるんですが、佐賀市は大きいので、まだ大分大丈夫なんですかね。

そこの自治体では突然降ってわいたような形で、これまでは個人の浄化槽も市営にします、もともと汲み取りしていたところも市営にするという動きでずっと事業をされてきていたけれども、今年度になって突然、もうそれやめようというような動きになっている状況です。例えば佐賀市の場合は、市営浄化槽の整備事業についてはどうなのか、今後も市営で浄化槽事業を行うのか個人的に気になってるとこであります。

〇事務局

市営浄化槽の大元の考え方ですが、もともと公共下水道区域の見直しに伴い市営浄化槽区域を作ったということでございます。公共下水道で管路を這わせて小さな集落まで全て管路を整備することを当初は考えておりましたが、それでは費用がかかりすぎることから、エリアの見直しを行い、市営浄化槽とした、という経緯があります。あとは維持管理につきまして、浄化槽につきましては維持管理をきちんと行わないと、汚れたままの水がそのまま河川へ排出されてしまいます。そのため市で適切に維持管理を行うということで市営浄化槽という形で事業を行っております。近年、市営浄化槽を個人に移管する流れがあるとはお聞きしておりますが、佐賀市としましては、そういったことは今のところ考えてないというところです。基本的に下水道が整備されていれば下水道使用料で賄えるところを事業費の関係や色々な要因を考えたときに、市営浄化槽でお願いをしたというところでございますので、基本的には市でやるということで方針的には変更はございません。

〇会長

他に御質問等いかがでしょうか。

ないようでしたら、続きまして、議事の３　その他となりますけど、令和８年度の熊本地震への支援について、御説明をお願いします。

〇事務局

≪「議題（３）」説明　約６分程度≫

〇会長

ありがとうございました。今の御説明につきまして、委員の皆様から御質問とか、御意見とかございませんか。

〇委員

御説明ありがとうございました。

私どもの日本下水道管路管理業協会のほうでも８月９日から８月 28 日まで、二次調査を目的に、また調査慣れしていない自治体さんの一次調査のサポートも行ってまいりました。最終的には 60 班ぐらいの調査班が入りまして、震災発災から１か月以内に調査結果をまとめるということで、プッシュ型で最後は人手が余るくらいありましたけれども、佐賀でもそういった災害が起きた場合には、下水道のほうで御協力ができるんじゃないかということと、それから今回の地震の中で生活用水の不足ということが

非常に問題になっておりましたので、地元事業者として色々な団体に関与してるんですけども、防災用の井戸とか、そういったものを進めていきたいと、公助・共助・自助いろんな形で進めていければというふうに考えておりますのでまた、御協議する場があればうれしいなと思っております。以上でございます。

〇委員

私は 10 年前の熊本地震のときに、熊本県庁の中で応援支援業務やっておりまして、そこの中でライフラインの復旧というのは非常に担当者の方が御苦労されているのを目の当たりに見ました。今回、佐賀市からも早急に現地応援に入っていただきましたことを改めて敬意を表しますし、現地に入った方はお疲れさまでした。

1 点お尋ねしたいのは、10 年前の熊本地震と比べて何か違ったのか。例えば、前回よりも少し効率的にできたとかですね。何か現地からの 10 年前と比べて意見が上がっていたら、参考のためにお聞かせ願いたいんですが。

〇事務局

今回の熊本地震に派遣いたしました職員からいろいろお話を伺っておりました。やっぱり水を待ち望んでいらっしゃるというところは変わらなかったんですけれども、やっぱりその言われるような、生活用水としての水もすごく求められており、飲料水としては物資として届いたりもするというような状況でございました。

ただ 10 年前の経験から、固定式の給水装置の準備が多くされてあるなっていうのを感じたということで、給水車を給水場所に置いてしまうのではなく、移動して使えるというような状況ができたということがありましたので、そういった機動性を活かした活動ができたと感じたところでございます。以上です。

〇会長

どうですか。吉村委員から何かありますか、大丈夫ですか。

〇委員

今日は難しい話が多く、なかなか発言できないなと思ってます。おいしい水の供給っていうところを本当に目指されているっていうところが今日は数字が多くてなかなか分からなかったんですけど、でも後半教えていただけたのがすごくよかったなと思っています。それから計画どおりに数値が上がってるっていうのも、パーセンテージを示していただいたことで分かったので安心していいのかなと、少し楽観しているところです。それから災害支援については、すぐニュースなんかで目について、すごく頑張ってらっしゃるなという印象を受けました。支援に行けるだけの技術があるっていうことと、その経験値をまた上げられたということで佐賀市にとっても心強いなと思いましたし、先ほどの話でも 10 年前とは違うというところが分かったので、そういう協力体制っていうのは佐賀市だけじゃなくて、全国的にも作られてているのかなというふう思いました。本当に暑い中、大変だったかなと思います。ありがとうございます。

〇委員

私は今回、佐賀市さんの計画関係を見させていただいて１番思ったのは、老朽化対策であるとか、耐震化といった災害対策について今後を考えて計画されているということは非常に理解ができました。一つ私自身が気になってるのは、これは佐賀市さんだけということではなくて、上下水道事業者全体に言えることだと思いますけど、最近では利上げがあっていて、企業債の利率についても 10 年 20 年で非常に利率が低かったんですけど、今後の投資に対して借入れた企業債の支払利息が増えていくっていう問題があります。

それと人口減少によって、収益が下がってきますので、やはり資金繰りという問題が、非常に大きな課題になっていくと思いますので、前年までに検討させていただいた料金改定とともに、やはり今後、事業の継続のために資金繰りと、こういった老朽化などの投資の両方の側面からやはり検討していく難しさというのが非常に大きな課題だと思っております。やはり料金改定も手段の一つでありますし、ウォーターＰＰＰなんかの効率的な経営というところの両立てで、いろんな対策を検討頂いて、佐賀市にとって何が１番いいかを考えていただくのが非常に大事かなと思いました。老朽化、災害対応、そういったことを今回経験されたのが佐賀市さんにとってはやはり、今後につながるのかなという意味では非常に聞いてて、皆さんの働きっていうのは伝わったかなと思いますので、今後も大変でしょうけど頑張っていただきたいなと思います。以上です。

〇会長

他に御質問等はありませんか。

それでは、本日予定されている議題は以上となります。また後から御質問等がもしございましたら、御手元に意見・質問表がありますので、これをメールまたはファクスで事務局にお送りください。

なお質問票のデータは後ほど、E メールでもお送りされます。御提出頂いた意見につきましては、次回の会議の冒頭で御紹介して、頂いて意見交換を行いたいと思います。

それでは以上で会議を終了します。お疲れさまでした。それでは、事務局にお返ししたいと思います。

〇事務局

・第２回目以降のスケジュールを説明

１２時２０分　終了